

1. 実況上の着目点

- ① 日本のはるか東には、500hPa 5940m以上の背の高い高気圧があって、対応する地上高気圧が西へ移動。高気圧の縁辺で下層暖湿気が流入しており（秋田の15日21時高層観測850hPa θ_e は349Kを観測）、また、気圧の傾きが急となり、東～北日本ではやや強い～強い風が吹き、うねりを伴ってしけている所がある。
- ② 朝鮮半島付近には、500hPa 5700m付近で -6°C 以下の寒気を伴う寒冷渦があって、対応する地上低気圧が朝鮮半島付近をゆっくり北北西進。また、500hPa



主要じょう乱解説図

5820m付近のトラフが九州付近を東進。衛星水蒸気画像で暗域が明瞭。

- ③ ①の高気圧縁辺の下層暖湿気や②の低気圧やトラフの東側に流れ込む下層暖湿気、上空の寒気の影響で、西日本と北日本では雷を検知、近畿地方では竜巻注意情報を発表。南西諸島から北日本にかけて強い～激しい雨を解析している所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧は西に移動し、17日には日本の東へ中心を移す。1項②の低気圧は北上して不明瞭化。アムール川上流域の500hPa 5760m付近のトラフが中国東北区へ進み18日にかけて停滞し、中国東北区付近は気圧の谷となる。日本付近は18日にかけて、1項①の高気圧縁辺を回り中国東北区付近の気圧の谷へ向かって下層暖湿気が流れ込む場が続く。下層暖湿気や上空のトラフの影響で、大気の状態が非常に不安定となり、激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。西日本では18日にかけて、東日本では17日にかけて、北日本では16日と18日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。東～北日本では、これまでの雨の影響で地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高くなることに留意。高気圧縁辺を回る暖湿気と日本の南から流入する暖湿気が合流し、降水が強まる可能性があることにも留意。
- ② 2項①の高気圧の縁辺で気圧の傾きが大きくなり、吹送・吹続の長い南寄りのやや強い風や強い風が吹き、うねりを伴い波が高くなりしける所がある。北～東日本では17日にかけて、西日本では18日にかけて、南西諸島では17日と18日は、強風やうねりを伴った高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本とするが、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕 ① 雨量(06時からの24時間)：東海250、関東甲信150、近畿・四国100mm。② 波浪(明日まで)：東北5、北海道・関東・伊豆諸島4、東海・近畿3m。③ 高潮(明日まで)：西～東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。